



グリーンポトスニュース

94号：2005年7月

寝苦しい夜が続いております。今年も、来年のように猛暑になる予感がします。今月の話題は『硬膜外ブロック』です。

硬膜外ブロック

硬膜外ブロックは、ペインクリニックでの治療の中心となるブロックのひとつです。硬膜外ブロックは、硬膜外腔という脊髄神経の外にある空間に局所麻酔薬を注入し、脊髄神経から出てくる痛みを支配する神経や血行を支配する神経を一時的に休ませて、痛みをとり、血行を改善して病気を治す治療法です。

脊髄神経は頸部から足先まで支配しているため、硬膜外ブロックは頭部を除く全身の痛みによく効きます。たとえば、肩こりや、ギックリ腰・椎間板ヘルニアなどの腰痛症、膝・足の痛みなどに対しては非常に有効です。その他、帯状疱疹後神経痛、反射性交感神経萎縮症などの交感神経を介する疾患にも有効です。局所麻酔薬の濃度を濃くすることにより、手術の麻酔に、また、術後鎮痛にも使用されます。硬膜外麻酔は多くの病院にて行われていますが、普通の全身麻酔に比べて手技が複雑であること。また、麻酔を専門とする医師である麻酔科医が少ないこともあり、まだまだ一般的でないのが実状です。硬膜外ブロックは、使用する針が極めて細いため、より技術を必要とする治療法です。



合併症としては、低血圧症、硬膜穿刺、硬膜外血腫などがあります。硬膜外ブロックは、血行をよくするため、一時的に血圧が下がります。しかし、その状態は、数十分間で治まります。当院ではその監視のため、30～50分間ベット上で安静にし、血圧測定を行います。

硬膜外腔は数ミリ程度の厚さしかないため、硬膜穿刺の可能性がありますが。確率はある調査では0.64%、当院においては、もっと少ないと考えております。

極稀ではありますが、硬膜外血腫を引き起こします。これは、特に、心筋梗塞や脳梗塞の治療や予防のために、血液の流れをよくする抗凝固剤や抗血小板剤などを服用していると発生しやすいため、これらの薬を服用していると神経ブロックはできませんので、事前に相談してください。